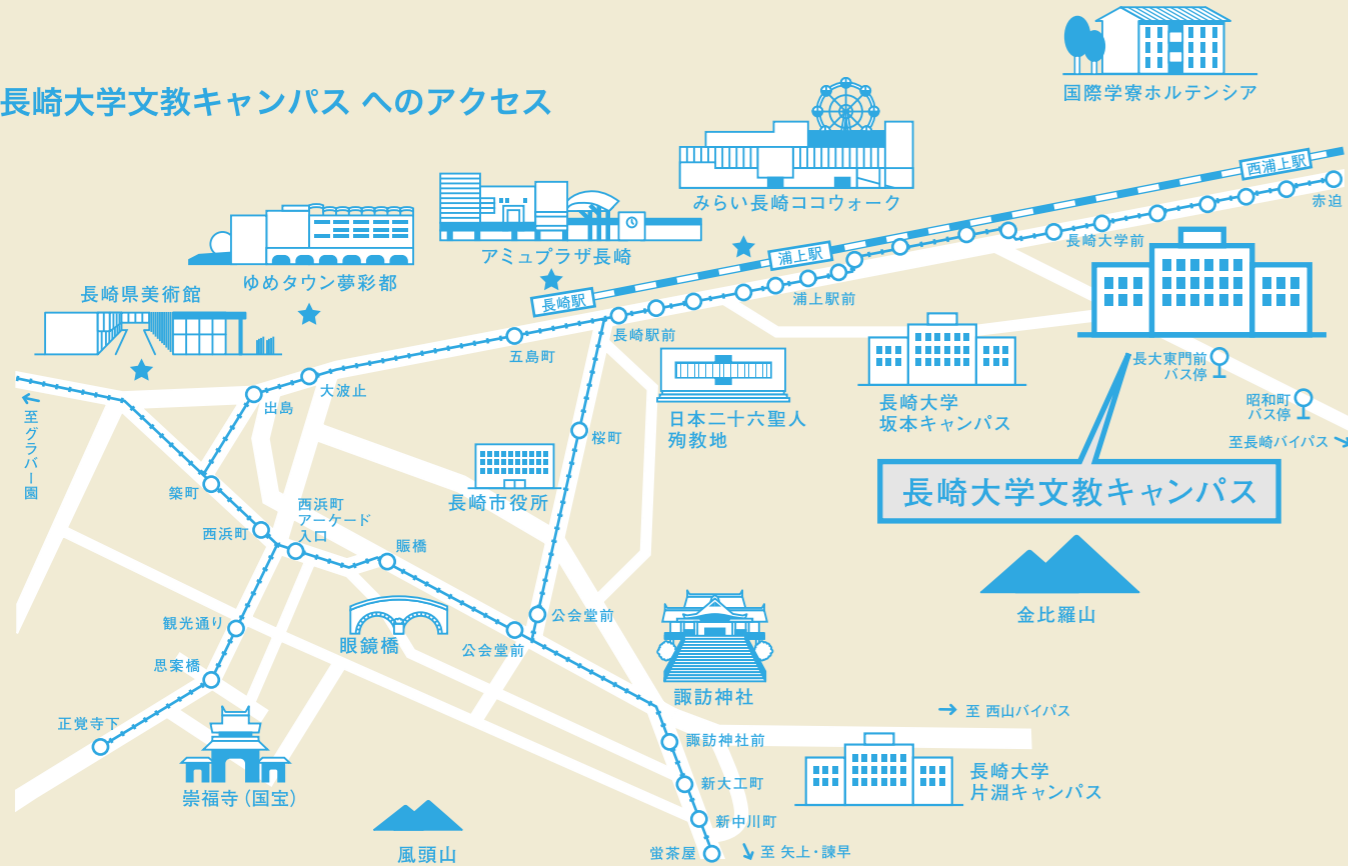


NAGASAKI UNIVERSITY

長崎大学多文化社会学部

School of Global Humanities and Social Sciences (SGHSS)

長崎大学文教キャンパスへのアクセス



JRをご利用の場合

JR長崎本線「浦上駅」下車、その後、以下の路面電車もしくはバス利用

- 浦上駅から路面電車をご利用の場合
「浦上駅前」から「赤迫（あかさこ）」行き乗車
「長崎大学前」で下車（所要時間 / 約10分）料金 120円
- 浦上駅からバスをご利用の場合
「浦上駅前」から「1番系統」のバスに乗車
「長崎大学前」下車（所要時間 / 約10分）料金 150円



高速バスをご利用の場合

浦上経由長崎方面行きバス「昭和町（しょうわまち）」で下車し、徒歩で長崎大学東門まで約15分あるいは長崎大学正門まで約20分



航空機をご利用の場合

長崎空港（大村市）から浦上経由長崎方面行き長崎県営バス「長崎空港リムジン」で「長大東門前（ちょうだいひがしもんまえ）」で下車（所要時間 / 約50分）、又は住吉経由長崎方面行き長崎県営バス「長崎空港リムジン」で「長崎大学前（ながさきだいがくまえ）」で下車（所要時間 / 約55分）し、徒歩で約3分
片道バス料金 / 900円、往復バス料金 / 1,600円



地域の視点から世界を俯瞰し、グローバルな視点から地域を考える、人間性豊かな人材を育成します。

長崎大学多文化社会学部では、語学・社会科学・人文学からなる

多彩なカリキュラム、海外留学やフィールドワークなど積極的な学びの制度により

豊かな人間性を持つ人文社会系グローバル人材を育成します。

世界や他者との紐帯そのものである「ことばの力」、主体的に世界を観察し

体験的に情報を得る「調べる力」、調べた材料をもとに理解を深める「知識・考える力」、

そして社会へ働きかけ、変化を起こす「行動力」を身につけ、

卒業後には長崎から世界へと舞台を移し、新しい時代や価値、文化を創造しましょう。

【教育理念・教育目標】

多文化社会学部では、「グローバル化時代の多文化社会において必要とされる人間力と社会力」を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバル化する社会を担い、たくましく生き抜く力を有するグローバル人材を世界に送り出すことを教育理念としています。

具体的には、人文社会系学部 of 学士課程教育における専門性を担保しつつ、グローバル人材の基盤的資質としての高度な外国語の運用能力・コミュニケーション能力とジェネリックスキルの涵養に重点的に取り組みます。すなわち人文社会系諸分野を「多文化社会」の観点から再編・統合することで、政治・法律・経済等の社会科学系の知識と考え方と、世界の各地域の多様な社会・文化・歴史・宗教を理解できる人文学系の知識と考え方とをあわせ持つ人材を育成し、言語的・文化的背景を異とする人々と協働して、国際社会の様々な課題の解決に向けて行動できる人材を世界に送り出すことを教育目標としています。



学長 片峰 茂

1950年生まれ。長崎大学医学部卒業、東北大学大学院医学研究科修了(医学博士)。長崎大学教授、副学長、国立大学法人長崎大学理事等を経て、2008年学長就任。



学部長 中村 則弘

1957年生まれ。筑波大学大学院社会科学研究科修了(社会学博士)。愛媛大学教授を経て学部長就任。愛媛大学名誉教授。専門は、国際社会学、社会変動論。西欧社会知と対比しつつ、脱オリエンタリズムを軸にグローバル化時代のなかでアジアの諸価値体系のもつ意味を批判的に問い直しています。

長崎からグローバルへ。 長崎大学だからできる学びがあります。

「多文化社会学部」は、4年前に誕生したばかりの人文社会系の新しい学部です。世界の多様な文化、歴史、地理や国際関係と真正面から向き合うことを通じて、多文化の増嶋(るつば)である現代社会の政治・経済、文化、社会活動分野において国際的に活躍できる人文社会系グローバル人材を育成します。しかも、破格の英語力を備えた、現場に強く、個性が際立つ長崎大学ならではのグローバル人材です。多様性の時代、通り一遍の知識を英語で語れるだけでは国際社会では通用しません。生まれ育った土地、学ん

だ街、さらには愛する国のことを通じて世界を語ることのできる人材こそが真のグローバル人材であり、国際社会において確固たる存在感を発揮できます。「多文化社会学部」では、長崎に根ざした特色ある教育を通して、地域の視点から世界を俯瞰し、グローバルな視点から地域を考えることのできるグローカリティ(glocality)を体現する人材が育ちます。400年以上にわたる国際交流の歴史を持つ長崎で学び、個性際立つグローバル人材として世界へ飛翔する。そんな志に燃える若者たちを待っています。

世界に向けてまだ見ぬ道筋を。

現代においては、グローバル化のなかで複数文化の共生と協働が求められています。長崎大学多文化社会学部は、この時代的要請に真正面から応えようとするものです。そこで、国際的に活躍できるグローバル人材の育成ということを教育理念に掲げ、海外留学やフィールドワークなどを広く取り入れ、これまでとは異なる大学での学びを実現しようと取り組んでいます。また、複数文化の共生と協働ということでは、「地球規模で考え、地域で行動する」ということが求められることとならざるを得ません。そうであるならば、「地域で考え、地球規模で行動する」ということも考えておいてよいでしょう。とすれば、地域に根ざした大学から世界を俯瞰し、行動する力を涵養することこそ、いまの時代が未来を担う世代に求めていることなのかも知れません。

ところで近年では、アジア各地の大学はもとより、ヨーロッパの大学を訪れる機会も増えてきました。そのなかで、痛切に感じるがあります。それは、ヨーロッパの大学が、総じて個性豊かなことです。地域の歴史や文化が深くかかわっていることは、間違いありません。ひるがえって、最も個性が感じられないのは、身近な、東アジアの諸大学だと思えます。それは何より、画一化しようとする力があまりに強く反映してきたからでしょう。また、地域に根差した市民性が

活かされていなかったことも忘れてはならないでしょう。グローバルとローカルの結びつきの重要性が広く認められる時代において、東アジアの諸大学が深く自省すべきであることは確かです。歴史と文化に根ざした、地域的個性を活かした学びの場をつくりあげることが必要なのであり、日本・アジアを見渡しても長崎大学は出色の位置にあると断言できます。「希望とは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなればそれが道になるのだ」と、魯迅は『故郷』のなかで語りました。付け加えれば、道はない地上に、誰かが初めてまだ見ぬ希望の足跡をつけていたのです。前途が平坦なものでないことは明らかです。長崎大学多文化社会学部も、まだ見ぬ希望の道筋を開かんと奮闘しているのです。歴史ゆたかな長崎から、世界に向けてとびたち、新しい時代や価値、文化を創造してゆきましょう。

Contents

身につけるべき4つの能力	02	【各コースの紹介】			
特色ある5つのコース	03	国際公共政策コース	10	独自のキャリア教育プログラム	15
語学力強化のためのプログラム	04	社会動態コース	11	年間スケジュール	16
世界への扉を開く留学プログラム	05	共生文化コース	12	「国際学寮ホルテンシア」のご案内	16
多文化社会学部の学びのシステム	08	言語コミュニケーションコース	13	教員紹介	18
		オランダ特別コース	14	入試情報	20

多文化社会で活躍する グローバル人材であるために 身につけるべき4つの能力

多文化社会である現代において、国際的に活躍する人材となるために備えておくべき4つの能力。


それは「ことばの力」、「調べる力」、「知識・考える力」、「行動力」です。

多文化社会学部では、これら4つの力を総合的に養っていくことで確かな論理や知識を軸とし、さまざまな場面で臨機応変に行動し、社会貢献できる、グローバル人材の育成を目指します。

「ローカル」から「グローバル」を目指す 世界を学びのステージにする 特色ある5つのコース

国際社会が抱える様々な課題を分析する国際公共政策コース、人・モノの動きから世の中をとらえる社会動態コース、多様な文化の理解から共生を考える共生文化コース、適切な言語運用の力を身につける言語コミュニケーションコース、そして、オランダを切り口に現代の欧州を学ぶオランダ特別コースの5コースで構成されています。自分が学びたいコースに進み、目標に向かってチャレンジしてください。

Language
ことばの力




「ことばの力」とは「高度の外国語運用能力とコミュニケーション能力」です。多文化社会学部では英語、中国語及びオランダ語を体系的に学ぶためのカリキュラムを設計しています。とりわけ英語については段階的な目標を設定するとともに、夏季集中講座や英語カフェといった授業外においても学ぶ機会を多数設定することで、多くの学習時間を確保しています。

[提供するカリキュラム]

- ◎英語モジュール
- ◎中国語モジュール
- ◎オランダ語モジュール

Research
調べる力




「調べる力」とは、多文化社会が抱える様々な課題や現象を対象として、多様な主体と協働・連携をしながら、自ら立てた問いを学術的に探究して発表する能力のことです。多文化社会学部ではデータや文献の収集と分析、課題の発見と整理、調査の企画や実行、といったスキルを身につけることを目指します。

[提供するカリキュラム]

- ◎リサーチ入門
- ◎リサーチ基礎
- ◎外国語文献購読

Knowledge
知識・考える力



「知識・考える力」は、すなわち「多文化状況と文化多様性の意義を理解できる力」のことです。世界の諸地域に生起する多文化社会の諸問題に関する基礎知識を習得するとともに、既存の人文社会系の学問分野をグローバル化時代の多文化社会という視点から俯瞰し、具体的な事例に即して実践的に学ぶことを目指します。

[提供するカリキュラム]

- ◎学部モジュール
- ◎基礎講義
- ◎専門講義

Action
行動力




「行動力」は、リーダーシップやパートナーシップ、あるいは実行力であり、教室での勉強だけでは身につけられません。多文化社会学部では全学生に短期留学を必須化するとともに、中期・長期の留学や海外でのフィールドワーク、インターンシップを推奨しています。

[提供するカリキュラム]


- ◎留学
- ◎フィールドワーク
- ◎インターンシップ

International Public Policy Program
国際公共政策コース




- 紛争や軍縮、人権侵害、貧困や開発、法の支配、保健・衛生といった、国際社会で発生する様々な政策課題を、政治学・法学・経済学を通じて実践的に学びます。
- 英語での講義や演習、中期・長期留学や海外フィールドワークといった多様な教育プログラムにより、世界を舞台に活躍する人材を育成します。

Social Dynamics Program
社会動態コース




- アジア、アフリカ、ヨーロッパにかけての社会の変化を、フィールドワークを通して実践的に理解します。
- フィールドワークによる問題発見、調査、成果公表のスキルを身につけることを重視し、国際的なコミュニケーション力と実践力を備えた人材を育成します。

Human and Cultural Studies Program
共生文化コース




- 思想、宗教、表象、メディア、歴史等の面から共生社会の基礎となる文化の重要性を思想史、宗教学、文化研究、歴史学等を通して学びます。
- 異なる文化だけでなく、自らの文化を相対化して理解することができる、多文化社会で求められる真のグローバル人材を育成します。

Language and Communication Program
言語コミュニケーションコース



- 多文化社会における言語の個性と普遍性及び言語と文化の関わりについて、言語学、文学、異文化研究を通して学びます。
- 多文化が交錯する現代社会において、適切に言語運用ができる人材を育成します。
- 教育職員免許状取得に必要な単位(教育実習を含む)をすべて修得した場合、卒業時に高等学校教諭一種免許状(英語)が取得できます。※P15参照

Dutch Studies Program
オランダ特別コース



- オランダ語文化圏について、人文学・社会科学の様々な角度から学ぶ日本に唯一のコースです。
- 欧州の文化に精通し国際的に活躍できる人材や、オランダで起きていることから近未来の日本のありかたを深く考えることができる人材を育成します。
- 1年間のオランダ留学が必修となります。

※国際公共政策コース、社会動態コース、共生文化コース及び言語コミュニケーションコースについては、1年次終了時にコースを決定します。

高い語学力は学びの軸であるとともに 多文化社会で活躍するための大切なツール

多文化社会学部では、ビジネス、学術、国際関係など現代社会のそれぞれの分野でグローバル人材として活躍するための不可欠なツールとして、「ことばの力」を重要視しています。「ことばの力」、とりわけ英語力の徹底強化を目的に、系統的で集中した英語力養成プログラムを実施しています。専門知識の習得と同時に、グローバルな多文化社会で活躍するためのスキルとしての「高度の外国語能力」、「コミュニケーション能力」の獲得を目指すことが、多文化社会学部のプログラムの大きな特徴です。また、英語のほかに将来、中国やオランダに留学を希望する学生向けに、中国語及びオランダ語モジュールを開設しています。

■ 英語教育プログラム

多文化社会学部では英語力強化に向けて段階的に目標値を設定した、英語力養成プログラムを実践しています。目標達成のために、短期留学の義務化、中期・長期留学の推奨（オランダ特別コースは必修）、専門科目の英語での開講及び定期的なTOEFL ITP/IELTSの受験等に取り組んでいます（TOEFL ITPの受験料は学部負担の制度あり。また、IELTSは学内でも定期的の実施。）。

英語カフェ

実践的に生きた英語を鍛えるコミュニケーションプログラム

英語カフェは、授業よりもくつろいだ雰囲気の中で、アクティブで実践的な英語コミュニケーション力を養う機会を提供します。日本の文化、歴史、社会について英語で語るための語彙を習ったり、プレゼンテーションやノートテイキングなど英語での授業に必要なスキルを身につけたり、TOEFLやIELTSに必要な「英語での教養」に触れたり、映画やニュースについて意見を交わしたり、といった様々なトピックを通して、英語力に広がりと深さを加えていきます。

2年次以降の学生には、培ってきた英語力をさらに磨き、向上させるための

【英語カフェ advanced】も用意されています。



Student's Voice



【初年次セミナー】
授業を通して身につく力。

1年 堀 とまほ
兵庫県立姫路飾西高等学校出身

授業は十人程度の少人数のグループで行われます。教授や友達と積極的に話しながら堅苦しさなどはなく、のびのびと学習しています。例えば

先日は、教授からその日の課題を与えられ、グループ内の誰かとチームとなって授業中にその課題を終わらせるということをやりました。また次の授業では、同じような考えを持った人とチームとなって共通の課題に取り組むということになります。どの人も、勉強に意欲的な人ばかりなので、互いに意見を出し合いながら楽しくこなすことができます。高校の授業と違って、自分たちで研究したいものを決めて、好きなように研究できるので、主体性がかなり高い授業となっています。この授業では、更に膨大な資料の中から必要な情報を収集する能力や人にプレゼンする能力などが身につくと思います。

英語科目 18 科目

(1年次) 8科目

Study abroad and Presentation
Reading and Writing I
Reading and Discussion I
英語の仕組みと意味 I
英語コミュニケーション I、II
総合英語 I、II

(2年次) 5科目

Academic Writing I
英語の仕組みと意味 II
Reading and Writing II
英語コミュニケーション III
総合英語 III

(3年次) 5科目

Academic Writing II
Reading and Discussion II
Advanced English I、II
Debate

多文化ラウンジ

フリースペースを活用して語学力アップ！

学生が自由に使えるスペースで、自習や打ち合わせのほか、英会話の実践的練習のためにも使うことができます。ここで学生同士、あるいは留学生や教員を交えて語学力の上達を目指します。



初年次セミナー成果発表会

英語を使ったプレゼンと討論で学びの成果を確認！

1班10名で構成された学生たちが、「初年次セミナー」で実施した調査の成果を学生・教職員の前で発表します。各班のメンバーがディスカッションを通して問いを共有し、文献調査やフィールドワークを協力して行った上で、その成果を英語でプレゼンします。

1年次前期の学びを総合し、発信していくよい機会となっており、入学時とは見違えるような自信に満ちた姿で、英語での報告と議論を行う姿を見ることができま



【Reading and Discussion I】
柔軟な思考力と、海外で通用する「発信能力」を身につける。

1年 湯河 英里子
長崎県立長崎西高等学校出身

この授業では、自分の意見を述べる力をつけつつ読解力の向上、現在のグローバル化する社会で必要とされる批判的思考能力を身につけることができます。クラス内では少人数のグループをつくり、現代社会における課題について議論を交わしながら英語の理解力と語彙力を高めることもできます。また、ネイティブの先生の丁寧な指導により高校ではなかなか身につけられない発言力も鍛えられ、クラスメイトとの親睦も深めながら様々な意見や考え方に触れることができるため他者の意見を傾聴すること、物事を多面的・論理的に観察することも学べる授業です。英語力に自信がない学生もいつの間にか議論に参加している、積極性が磨かれるとても魅力のある講義です。

世界への扉を開くさまざまな留学プログラム

異文化への理解を深めるために留学を推奨している長崎大学。そのなかでも多文化社会学部では、短期、中期・長期留学や海外フィールドワーク実習をカリキュラムに組み込み、さまざまな形で海外で学ぶプログラムを設定しています。英語をはじめとする語学力の向上を目指すだけでなく、世界を舞台に多文化社会学の専門性を深めることを目的としています。

■ 短期留学

短期留学は、主として1年次の学生全員を対象としています。英語能力の向上と異文化交流への関心を高めることを目的に3～4週間程度、ホームステイや現地学生との交流を経験しながら、海外大学との連携に基づくサマープログラム等に参加します。

留学前には複数回のオリエンテーションを開催し、現地の事情を学び、安全についての意識を身につけます。過去に実施した短期留学では教職員が旅程の一部を引率して留学生生活をサポートしました。短期留学は、長崎大学の教養教育科目の一部である外国語科目として単位認定されます。

※平成28年度までの状況について

平成28年度までの実績は次のようになっています。平成29年度以降の短期留学プログラムの内容および奨学金の給付額については未定であり、過去の実績から変更する可能性があります。

■ 留学先地域、大学及び時期について (平成28年度までの実績)

	留 学 先	時 期
アメリカ	カリフォルニア州立大学モントレーベイ校	平成26年度
	ナショナル大学	平成27,28年度
カナダ	カルガリー大学	平成26年度
	マニトバ大学	平成26,27年度
	ウィニペグ大学	平成26～28年度
	レスブリッジ大学	平成28年度
オーストラリア	クイーンズランド工科大学	平成26年度
	サザンクロス大学	平成26年度
イギリス	ハイランド&アイランド大学バース校	平成27年度
	キール大学	平成28年度

■ 旅行代金 (平成28年度実績)

約30～40万円

※旅行代金に含まれるもの：エコノミークラス利用往復航空券、航空保険料・燃油費、日本・現地空港諸税、現地空港～大学の往復送迎費、宿泊費、授業料・研修費、食費（一部）
※旅行代金に含まれないもの（一部を例示します）：超過手荷物料金、海外旅行保険、長崎又は福岡空港までの往復交通費、その他実費、その他個人的生活諸費用

■ 留学奨学金 (給付型) (平成28年度までの実績)

13万円 (アメリカ、カナダ、イギリス)

12万円 (オーストラリア)

※原則として短期留学参加者全員に給付しました。

■ 海外フィールドワーク実習

海外フィールドワーク実習は、中期・長期留学に準じるものとして実施されます。

アジアやアフリカなどからフィールドを選定し、他者と出会い、相互作用する中で、グローバル時代の社会人として必要な実証と理論の力を高め、同時に多分野横断的な学びを実現することができます。

初の実施となった平成28年度は、9名の学生がタンザニアのザンジバル州立大学の学生と協力してフィールドワークを行いました。

➤ 海外フィールドワーク実習に参加した在学生からのメッセージ



4年 徳永 翔太郎

佐賀県立鳥栖高等学校出身

私は「アフリカで活躍できる人材になる」という目標のため、タンザニアでの海外フィールドワーク実習への参加などアフリカにとっぶり浸かった学生生活をおくってきました。観光でも行く機会の少ない(行こうと思う人も少ないかもしれませんが)アフリカ地域において、自らが立てた「疑問」を現地でフィールドワークを行うことによって解決していくということは「challenging」なことである一方、他人の視点から見た「アフリカ」ではなく、自分の「五感」でアフリカというものを捉えることができる貴重な「opportunity」でもあります。日本とは異なる魅力的な文化の「ギャップ」や、途上国という先進国とは違う生活の「ギャップ」など、アフリカの生活は常に驚きの連続でしたが、現地に行かないと分からない「現場感」を身をもって感じることができました。



4年 二石 梨香

鹿児島県立伊集院高等学校出身

私は2016年の夏に東アフリカのタンザニア連合共和国・ザンジバルでフィールドワークを行いました。アフリカでの経験豊富な先生方と仲間たちとの3週間に渡る滞在は、観光では体験することがない刺激的なものでした。私は、現地の初等教育における保健教育が、イスラームの生活規範からどのように影響を受けているかについて調査を行いました。調査以外にも現地のスパイスを用いた料理に挑戦したり、夕方には子どもたちと海辺で遊んだりといった生活をとても楽しみました。ザンジバルからの帰国後は、グローバル・サウスを生きる人々の暮らしにこれまで以上に関心を寄せるようになりました。初めてのアフリカでの本格的な調査と現地でのコミュニケーションを通して、私の頭の中での世界が、アジアを超えてアフリカまで広がったことを実感しています。

■ 中期・長期留学

中期・長期留学は、語学力の向上にとどまらず、学部で学んだ専門知識を土台として、留学先において更に専門性を深めることを目的としています。大学間の学術交流協定に基づく交換留学として実施されるため、学生は長崎大学に学費を納入し、長崎大学に在学したまま半年から1年間留学することになります。

・留学するためには、定められた時期までに語学力及び学業成績に関する一定の学部内要件を満たすことが必要です。

・「オランダ特別コース」の学生は、1年間のオランダ留学が必修となります。その他のコースの学生にも中期・長期留学を強く推奨します。

・留学先で取得した単位は、授業内容・レベル・形態の観点から精査し、長崎大学で開講している科目の単位として認定します。そのため、中期・長期留学に参加した場合でも4年間で卒業することが可能です。

留学サポート体制

多文化社会学部では留学相談室を設置し、留学に関する必要な情報を提供しています。留学先の決定や渡航手続き、履修科目の選択等、留学に関する疑問や不安は、海外経験が豊富な国際交流ディレクターに相談することができます。

学生が海外留学に出発する前には、渡航国別に危機管理に関するオリエンテーションを実施しています。留学中は、指導教員等が随時電子メール等で学生の修学・生活相談に応じるほか、留学先大学の担当者とも密に連絡を取り合い、学生の状況を把握するとともに、学部内での情報共有とトラブルへの対応に当たっています。

また、長崎大学は留学生危機管理サービス(OSSMA)に加入しており、24時間体制で学生の留学生生活をサポートしています。

(※留学サポート体制は、大学の組織変更により名称等が変更されることがあります。)

➤ 中期・長期留学に参加した 在学生からのメッセージ

オランダ社会に身を置いて学ぶことは有意義な経験です。

4年 山本 瑞穂

東京都・広尾学園高等学校出身

留学先：オランダ/ライデン大学

ライデン大学では語学だけでなくオランダの歴史や社会についての講義も受けられます。春学期はすべての講義がオランダ語で行われるので、難しいと同時にとてもやりがいがありました。特に良かったのは、今年3月に下院選挙があり、オランダ社会が動く瞬間を実際に見ることができたことです。事前に「オランダの文化と社会」という講義で各政党についてグループで調べプレゼンテーションをおこなっていたおかげで、オランダの政治について理解が深まりました。

課外では、ライデン大学日本学科の学生と交流することが多いです。彼らは日本語学習に対するモチベーションがとても高く、私もオランダ語を頑張らなければと、いつも刺激を受けています。週末はアムステルダムやハーグの博物館を訪ねるなどして文化的にも充実した時間を過ごしています。



右が山本さん

留学は、毎日が新鮮で、挑戦の日々でした。

4年 廣岡 胡美

福岡県立北筑高等学校出身

留学先：イギリス/アバディーン大学

私は、トーマス・グラバーの出身地である、スコットランドのアバディーンに留学をしました。日本人学部生は自分だけ、英語はアクセントが強く聞き取れない、という状況で、最初は不安で一杯でした。しかし、世界各国の学生と寮生活を送る中で、かけがえのない友人に出会うことが出来、その不安は一気に解消されました。留学中は、多くの挑戦をしました。私は、行動経済学に関心があったため、経済学・社会学・心理学と、専攻を超えて様々な科目を履修しました。勉学以外では、

合唱団に所属し、地元の教会で、ラテン語でミサを歌いました。また、長崎市とアバディーン市の、市民友好都市関係を促進する活動にも取り組みました。このように、留学は、様々なことに挑戦する機会が溢れています。ぜひ、皆さんも、留学で、新しい自分を発見してみてください！



左から2番目が廣岡さん



海外協定先(平成29年5月1日現在)

長崎大学には世界各地に海外協定先があります。夢や目標を持って世界へと飛び出していく学生を支援するため、今後も、さらに海外協定先のネットワークを広げていきます。

※()内はこれまでの留学実績(平成29年5月時点。現在留学中、渡航が決定済みのものを含まず。)

【中国】	華東師範大学(1)
山東大学(2)	香港教育大学(1)
北京外国語大学(1)※	※協定先ではないが中国政府奨学金を利用して留学
【台湾】	国立政治大学
国立台湾大学(3)	国立台湾師範大学
国立高雄大学	国立高雄応用科技大学
成功大学	
【韓国】	亞洲大学校
建国大学校(1)	東国大学校
延世大学校(原州キャンパス)	成均館大学校(1)
【イギリス】	アバディーン大学(1)
オックスフォード・ブルックス大学(2)	キール大学(3)
スターリング大学	ハイランド&アイランド大学バース校
マンチェスター・メトロポリタン大学	
【ドイツ】	アウクスブルク応用科学大学
ゲオルク・ジモン・オーム大学ニュルンベルク	ホーフ応用科学大学
マンハイム大学(6)	
【オランダ】	ライデン大学(1,2)
ラドバウト大学	
【ベルギー】	モンス大学
ルーヴァン・カトリック大学(KUルーヴァン)	
【フランス】	パリ東=クレティユ大学
【イタリア】	カ・フォスカリ大学
【スペイン】	マラガ大学(1)
【ポルトガル】	フェルナンドペソア大学
【ケニア】	ケニヤッタ大学
モイ大学	
【タイ】	カセサート大学(1)
チェンマイ大学	チュラロンコン大学
【インドネシア】	インドネシア大学
【マレーシア】	テイラーズ大学(2)
【ブルネイ】	ブルネイ・ダルサラーム大学(1)
【フィリピン】	アテネオ・デ・マニラ大学(1)
フィリピン大学ディリマン校(2)	

留学奨学金

長崎大学では、中期・長期留学に係る費用の一部を支援することを目的として、海外留学奨学金制度を整備しています。また、様々な外部団体の奨学金制度を活用できるように支援しています。(※受給できる人数には限りがあります。また、予算の都合により今後変更される場合があります。)

◎日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣)(H28年度受給者22名)
学業成績や家計基準など一定の基準を満たした学生に対して、留学期間に応じて最大12ヶ月間、月額6～10万円(留学地域により異なる)を給付。

◎長崎大学海外留学奨学金(H28年度受給者4名)
学業成績など一定の基準を満たした学生に対して、留学期間に応じて最大3ヶ月間、月額6～10万円(留学地域により異なる)を給付。

◎トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム(第4期受給者2名、第5期受給者4名、第6期受給者3名)
文部科学省初の官民共同で取り組む海外留学支援制度である本プログラムでは、単位取得を目的とした留学だけでなく、インターンシップやフィールドワークなど、自分で組み立てた留学計画を支援。奨学金、渡航費、授業料などの支援を受けることができる。他の奨学金と比べて給付額が多いことも特徴。

◎中国政府奨学金(H28年度受給者2名)
中国政府が給付する、中国に留学する学生を対象とした奨学金。生活費の給付や学費の免除など厚い支援がある。

【カナダ】	ユニベグ大学
カルガリー大学(3)	ニューファンドランドメモリアル大学(2)
フレージャーバレー大学	レスブリッジ大学(3)
【アメリカ】	アーカンソー工科大学
ウエスタンイリノイ大学	カリフォルニア州立大学モントレーベイ校(2)
ディキンソン州立大学(ノースダコタ州)	ノーザン州立大学(4)
ノースイースタン・イリノイ大学(2)	ノースダコタ州立大学
フロストバーグ州立大学(4)	ベネディクトゥン大学(イリノイ州)(2)
ペンシルベニア州立インディアナ大学(1)	ロングウッド大学(1)

【オーストラリア】	ウエスタンシドニー大学
エディスコーワン大学	クイーンズランド工科大学
サザンクロス大学(2)	サンシャインコースト大学(1)
ディーキン大学(1)	ビクトリア大学

やりがいを感じメリハリのある留学生活。

3年 宮城 敬

沖縄県・昭和薬科大学附属高等学校出身

留学先：アメリカ/ベネディクトゥン大学

私は現在、アメリカのベネディクトゥン大学に交換留学生として在籍しています。授業では主に人文科学系の科目を履修していますが、英語でそういった科目を理解するには大変だと感じる事が多いです。しかし、焦らずに地道に取り組めば、良い点数を取ることも十分に可能であるため、やりがいを感じながら日々過ごしています。私生活に関しては、週末にシカゴに出かけたり、近くのショッピングモールに友達に連れて行ってもらったりと、メリハリのある生活ができています。とても充実しています。特にシカゴは、大都市であり、見どころが多いため、一人でも友達と行っても楽しむことができます。残り3週間となった留学生活ですが、ベネディクトゥン大学に留学できたことはとても良かったと感じています。



左が宮城さん

美しいリゾート地での最高の留学。

4年 中石 実乃里

熊本市立必由館高等学校出身

留学先：スペイン/マラガ大学

英語以外の言語に触れたいと思って非英語圏への留学を希望していた私は、単純な興味からスペインへ留学しました。スペイン語は初心者状態で行ったので、授業は最初英語開講のものを選択し、法や経済、マネジメントなど幅広い分野を学びました。マラガ大学には世界中からの、特にヨーロッパ圏からの留学生が多く、授業後にはビーチにお昼寝をしに行ったり、夜遅くまでパーティーをしたり、テラスでみんな一緒に勉強したりもして、本当に素敵な毎日でした。頬のキスから始まる挨拶、距離感の近さなど、文化の違いすぎて日々驚きの連続でしたが、フレンドリーで温かくて優しい人たちに囲まれて、想像以上の充実した毎日を送ることができました。国内旅行はもちろん近隣国へ旅行ができるのも大きな魅力で、ずっとここに住みたいと思うほど大好きな場所になりました。



左端が中石さん

毎日が新しい発見、驚きの連続。

4年 松葉 佳子

広島県立広島井口高等学校出身

留学先：中国/山東大学

私は、中国の山東大学に1年間留学しました。英語で開講されている授業がほぼないため、中国語の授業が中心でした。中国は、留学生が世界各地から来ており、普段会えない国の留学生も多く、中国語が学べるだけでなく、日本では交流することができない国の人と意見交換ができた、文化に触れることができた、貴重な体験がたくさんできました。また、欧米圏への留学と異なり、制度がそれほど充実しておらず、都会でもないため、英語を話せる人もあまりいません。なので、自分から積極的に行動する必要があり、中国語しか通じない場面も多かったです。経済の発展が著しい中国は、どの都市にもそれぞれの雰囲気や文化、習慣があり、毎日が新しい発見や驚きでした。山東大学への留学は、言語の成長だけでなく、人としても成長できる1年になると思います。



左から4番目が松葉さん

多文化社会学部の学びのシステム

語学力を徹底的に強化し、人文社会系諸分野を「多文化社会」の観点から再編・統合した学際性に富むカリキュラム

学びの領域	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
多文化社会について学ぶ	短期留学 多文化社会学の諸問題Ⅰ(社会) 多文化社会学の諸問題Ⅱ(人文) 国際公共政策入門(政治) 国際公共政策入門(法) 国際公共政策入門(経済) 社会学入門 人類学・民俗学入門 歴史学入門 文化研究入門 思想・宗教研究入門 言語コミュニケーション入門 エリア研究入門	短期留学 軍縮論 国際関係基礎(政治史) 国際関係基礎(政治思想) 国際関係とジェンダー・人権 国際法 ミクロ経済学 国際社会学基礎 地域社会学基礎 家族社会学基礎 教育社会学基礎 歴史社会学基礎 文化人類学基礎(観光) 文化人類学基礎(民族誌) 文化人類学基礎(生態・社会) 文化人類学基礎(民俗学) 歴史学基礎(日本) 歴史学基礎(ヨーロッパ) 歴史学基礎(文化交流)	中期・長期留学 歴史学基礎(考古学) 思想史基礎(日本) 思想史基礎(中国) 宗教学基礎 文化研究基礎(表象) 文化研究基礎(メディア) 言語学基礎A 言語学基礎B 中国語学基礎A 中国語学基礎B 英語の発想と表現A 英語の発想と表現B 日本語学基礎A 日本語学基礎B 地域研究(アジア) 地域研究(アフリカ) 地域研究(ヨーロッパ)	中期・長期留学 国際政治学 比較政治学 平和学 EU法 国際機構論 国際人権論 開発経済学 計量経済学 アジア経済論 グローバルヘルス 国際経営論 多文化マーケティング論 国際社会学 異文化理解教育 トランスナショナリティ論 異文化と家族 グローバル社会学 現代アフリカ社会論 現代アジア社会論 陶磁考古学 グローバル文化交流史 社会史	異文化交流論 文化資源論 地域生態論 日本思想史 中国思想史 宗教文化論 記憶文化論 文化表象論 映画論 メディア・スタディーズ 地域史料論 イギリス文学論 異文化間コミュニケーション 英語音声のしくみと働き 英米文学概論 応用言語学 現代言語理論 コーパス言語学 対照言語学(日英) 対照言語学(日中) 第二言語習得論 日本語学
		日蘭比較文化 オランダ現代社会論	オランダ文化論 ライデン大学留学 特別研究	卒業研究	
キャリアについて学ぶ	グローバルキャリア入門	自主企画インターンシップ	キャリア形成論 企業セミナー		
実践的な調査研究手法を学ぶ	初年次セミナー リサーチ入門(社会調査) リサーチ入門(文献調査)	基礎演習Ⅰ リサーチ基礎(フィールドワーク) リサーチ基礎(サーベイ) リサーチ基礎(アーカイヴ) 外国語文献購読	基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ フィールドワーク実習(海外/国内)	専門演習Ⅱ	
外国語コミュニケーションについて学ぶ	Study Abroad and Presentation Reading and WritingⅠ 英語の仕組みと意味Ⅰ Reading and DiscussionⅠ 総合英語Ⅰ 英語コミュニケーションⅠ 総合英語Ⅱ 英語コミュニケーションⅡ	英語の仕組みと意味Ⅱ Reading and WritingⅡ Academic WritingⅠ 総合英語Ⅲ 英語コミュニケーションⅢ 中国語総合表現Ⅰ 中国語総合表現Ⅱ オランダ語Ⅰ オランダ語Ⅱ 初習外国語Ⅲ 初習外国語Ⅳ	Academic WritingⅡ Reading and DiscussionⅡ Debate Advanced EnglishⅠ Advanced EnglishⅡ 中国語文献討論Ⅰ 中国語文献討論Ⅱ オランダ語Ⅲ	中国語プレゼンテーション	
幅広い知識と技法を学ぶ	ミュージアム・講演ラリー 大使館連続講義 情報基礎 キャリア入門 長崎地域学	全学モジュールⅠ スポーツ演習 健康科学	全学モジュールⅡ		

※科目名称及び科目の開講時期は変更となる場合があります。

赤字=教養教育科目

[カリキュラム概要] 主に以下の科目群から成り立っています。

学部モジュール

1年次に受講する必修科目。世界の諸地域に生起する多文化社会の諸問題と、専門学問分野の基礎を学びます。

リサーチ科目、フィールドワーク

自ら立てた問いに対して、学術的に探究して発表する能力を身につけます。「フィールドワーク実習」では、国内外での実習を通じて、様々な課題を発見・整理し、多様な背景をもった人々とのコミュニケーションを通じて、高い問題解決能力を涵養することを目指します。

基礎講義

既存の学問分野の特質を十分に理解した上で、その枠を越えて領域横断的に多文化社会の諸相にアプローチするための基礎的視角と枠組みを身につけます。

中国語モジュール

世界で必要性が増している中国語を学びます。最終的には中国語によるプレゼンテーションができるレベルの力を身につけます。

専門講義

5つのコースごとに専門分野の理解を深めます。オランダ特別コースでは、ライデン大学への留学が必須。ライデン大学では学生の関心と将来計画に即した講義を受講し、ヨーロッパ単位互換制度(ECTS)に準拠したグローバルな専門知識と技能を身につけます。

英語モジュール

英語の仕組みから発音法、リーディング、ライティング、ディスカッション、ディベートまで学び、高度な英語力の習得を目指します。

海外留学

短期留学は、主として1年次の学生全員を対象としています。英語能力の向上と異文化交流への関心を高めることを目的に3~4週間程度、ホームステイや現地学生との交流を経験しながら、海外大学との連携に基づくサマープログラム等に参加します。

中期・長期留学は、語学力の向上にとどまらず、学部で学んだ専門知識を土台として、留学先において更に専門性を深めることを目的として半年から1年間留学します。なお、「オランダ特別コース」の学生は1年間のオランダ留学が必修であり、その他のコースの学生にも中期・長期留学を強く推奨しています。

国際公共政策コース

国際社会で発生する
様々な政策課題に対する知識や
分析手法を実践的に学ぶ

国際公共政策コースでは、紛争や軍縮、人権侵害、貧困や開発、法の支配、保健・衛生など、国際社会で発生する様々な政策課題に対して、主に政治学・法学・経済学の知識や分析手法を駆使して実践的に学びます。このコースでは、国家間だけでなく国境を越えた市民が相互に依存しながら変化するグローバル社会を理解するために、専門性を深めると同時に学際性を高めたカリキュラムを設計しています。さらに英語での講義や演習、中期・長期留学や海外フィールドワークといった多様な教育プログラムにより、世界を舞台に活躍する人材の育成を目指しています。



《開講科目》

- 国際政治学
- 比較政治学
- 平和学
- EU法
- 国際機構論
- 国際人権論
- 開発経済学
- 計量経済学
- アジア経済論
- グローバルヘルス
- 国際経営論
- 多文化マーケティング論
- 異文化理解教育
- グローバル文化交流史

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

Teacher's Voice



【国際人権論】

正解はないかもしれない。
でも、考え続けなくてはいけないこと。

近江 美保 教授

難民や貧困、様々なマイノリティ(少数者)、あるいはテロ対策など、現代の社会には人権とかかわる問題が数多く存在しています。人権にからむ問題の難しさは、例えば、難民として他国に移動する人々もいれば、その人たちを受け入れることで自分たちの生活が影響を受ける人々もいて、その双方に守るべき人権があるということです。少しでも状況を改善するためにはどうしたらよいのか。簡単ではありませんが、様々な視点から人権について考えることは、まさに多文化社会のあり方を考えることにほかなりません。基礎となる国際人権法を学びながら、私たちの周りにある人権問題を持ち寄って議論します。答の出ない問いだとしても、自分なりの解決策を探して考え続けること。その面白さと意義を感じてもらいたいと考えています。

Student's Voice



【国際開発論】

※平成30年度より科目名「開発経済学」に変更予定
現代グローバル社会の課題を
「貧困削減」の視点から考察する。

3年 中村 恒太郎

愛知県・名古屋市立向陽高等学校出身
留学先：フィリピン/
フィリピン大学ディリマン校

日本のような比較的恵まれた環境で育った私たちには、飢餓や貧困といった問題は遠い世界の出来事のように感じられるかもしれませんが。しかしそれらは過去数十年に渡って国際社会が取り組んできた課題であり、今なお完全な解決に至っていない、これからも私たちが向き合わなければならない現実です。この講義では、国際開発の抱える課題の現状を、その背景となるメカニズムから考えます。最新の開発経済の潮流を踏まえたケーススタディと実証的な事例を学ぶことは、実際の貧困削減へのアプローチを学生自身が主体的に捉えることにつながります。講義に出席する学生の多くは国際協力や貧困削減への取り組みに関心があり、中には留学生や大学院生もいます。現代グローバル社会の諸課題を開発経済の視点から議論することを通じて、国際社会に貢献できる人材の第一歩を踏み出しています。

社会動態コース

社会の変化を
フィールドワークを通して
実践的に理解する

社会動態コースでは、社会学、文化人類学、歴史学を中心として、アジア、アフリカ、ヨーロッパにかけての社会の変化を、フィールドワークを通して実践的に理解します。長い歴史において、ヒトやモノや情報は、常に移動を繰り返してきました。世界のどこかで発生した小さな変化が、人々の行動や情報伝達を通じて他の場所で大きな、思いもよらぬ変化をもたらしたりします。こうした全体的な変化のあり方を「社会動態」といいます。このコースでは、「社会動態」を学ぶために、フィールドワークによる問題発見、調査、成果公表のスキルを身につけることを重視し、国際的なコミュニケーション力と実践力を備えた人材育成を目指しています。



《開講科目》

- 国際社会学
- 異文化理解教育
- トランスナショナルリテリシー論
- 異文化と家族
- グローバル社会学
- 現代アフリカ社会論
- 現代アジア社会論
- 陶磁考古学
- グローバル文化交流史
- 社会史
- 異文化交流論
- 文化資源論
- 地域生態論
- 宗教文化論
- 地域史料論

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

Teacher's Voice



【異文化と家族】

先入観から自分自身を引き離す能力と
文化的な他者と生きる能力を
磨きましょう。

齋漢卓娜 准教授

グローバルに移動する「家族」について、社会学や移民研究から学びます。家族の多様化や個人化が進む時代に生きる私たちは、これまでにない規模で国境を跨って移動するようになり、それに伴い国際結婚をはじめとする移動する家族が急増する時代も同時に経験しています。講義では、家族を「常識」から問い直し、多様な文化背景を持つ人々のアイデンティティ、また家族と社会、国家との関係を、座学およびグループ・ディスカッション形式を通じ検討していきます。多文化社会学部で先入観から自分自身を引き離す能力と、文化的な他者と生きる能力を磨き、高めることを学生に求めています。自らのライフデザインをしっかり考え、真の多文化共生社会を構築していくための人材として力を発揮してほしいと思います。

Student's Voice



【アジア海域交流史】

※平成30年度より科目名「陶磁考古学」に変更予定
考古学的視点から
近世海上ネットワークの様相を導き出し
グローバル化について考える。

4年 岡田 淳希

長崎県・青雲高等学校出身
留学先：タイ/カセサート大学

今日、インターネットの発達によって急速にグローバル化が進んでいると言われていて。そのような中で、皆さんはそもそも「グローバル化とは何か」ということについて考えたことはありますか？この講義では中世から近世のアジアにおける海上交流ネットワークの特質を考古学の視点から遺物を元に導き出し、現代のように発達した技術がないのにも関わらず何故、そしてどのように異なる文化同士が交流したのかを考察します。必ずしも多くを語らない遺物から歴史的事実を推測するのは面白くもあり、同時に難しくもあります。遺物から見えてくる歴史を通して「グローバル化とは何か」に対する自分なりの考えを養うことができます。

共生文化コース

共生社会の基礎となる
文化の重要性を学ぶ

共生文化コースでは、思想、宗教、表象、メディア、歴史等の面から共生社会の基礎となる文化の重要性を、思想史、宗教学、文化研究、歴史学等を通して学びます。世界がグローバル化すると、多様な文化的背景をもつ人々が同じ空間の中で出会い、共生する機会が増えます。そこでは、互いの文化についての深い知識と共感が必要です。このコースでは、思想、宗教、表象、メディア、歴史等に関連づけながら学び、他者との共生をより豊かなものにするための人間観、文化理解を探究します。

カリキュラムは、アジアや日本の文化についても深く学べるように設計しています。異なる文化だけではなく、自らの文化を相対化して理解することができる、多文化社会で求められる真のグローバル人材を育成します。



日本二十六聖人記念館にて

《開講科目》

- 日本思想史
- 中国思想史
- 宗教文化論
- 記憶文化論
- 文化表象論
- 映画論
- メディア・スタディーズ
- 地域史料論
- 陶磁考古学
- グローバル文化交流史
- 社会史
- 文化資源論
- イギリス文学論
- 異文化間コミュニケーション
- 英米文学概論
- 日本語学

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

言語コミュニケーションコース

多文化社会における
言語の個別性と普遍性及び
言語と文化の関わりについて学ぶ

言語コミュニケーションコースでは、多文化社会における言語の個別性と普遍性及び言語と文化の関わりについて、言語学、文学、異文化研究を通して学びます。日本語、英語、中国語に焦点を当てながら、言語そのものの特性と言語を取り巻く環境について体系的に学ぶことで、コミュニケーション活動にとって不可欠な言語のしくみと機能を適切に理解する力を養成します。欧米や中国語圏の文化についても見識を深めることで、多文化が交錯する現代社会において、適切に言語運用ができる人材を育成します。このコースにおいて、教育職員免許状取得に必要な単位(教育実習を含む)をすべて修得した場合、卒業時に高等学校教諭一種免許状(英語)が取得できます。また、このコースを選択した場合、日本語教員基礎資格が取得しやすくなります。

※ただし、3年次以降に中期・長期留学を行う場合、4年卒業での免許状(英語)の取得ができません。



《開講科目》

- イギリス文学論
- 異文化間コミュニケーション
- 英米文学概論
- 英語音声のしくみと働き
- 応用言語学
- 現代言語理論
- コーパス言語学
- 対照言語学(日英)
- 対照言語学(日中)
- 第二言語習得論
- 日本語学
- 異文化理解教育
- 異文化と家族
- 異文化交流論

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

Teacher's Voice



【メディア・スタディーズ】
世界を動かす
メディアの構造を読み解く。

グラジディアン・マリア 准教授

今日、メディアは世界のあり方を左右するほど大きな影響力をもつようになりました。人々はますますメディアを通じて世界を理解し、自らの未来を思い描くようになってきました。この授業では、主に日本の宝塚歌劇を具体例としてとりあげ、それが個人を取り巻く世界を創り上げる要素として、どのように人々に利用されているかを分析します。それによって、グローバルなメディアの流れが、ローカルな場所で人を魅了し、社会にインパクトを与えるメカニズムについて考察します。そのための理論的な土台として、カルチュラル・スタディーズやジェンダー・スタディーズ、人類学などの基礎的知識を学び、また参与観察調査やインタビューなどの実践的な技術を身につけます。

Student's Voice



【文化表象論】
私たちの日常生活は、
「表象」されたもので溢れているのです。

4年 重山 千夏
宮崎県立宮崎大宮高等学校出身
留学先:マレーシア/テイラーズ大学

この講義では、「文化」のなかにおける「表象」というプロセスに焦点を当てていきます。「表象」とは、いま-ここに存在しないものを描き出すことを指します。一見難しく思えますが、「表象」は映画や新聞といったメディア、そしてインタビュー調査や口述史などの学問分野だけでなく、自分が体験した出来事を友達に話すといった日常的なことも含むため、とても身近なものでもあるのです。講義の中では、実際に、映画や小説などの分析を行っていくため、これまで観ていた作品が全く違った表情で見えてくる楽しさを味わうことができます。こうして、自分の常識を覆すような新たな知見に出会えることが、大学における学びの醍醐味ではないかかと思えます。

Teacher's Voice



【対照言語学(日英)】
言語の個別・普遍性を
論理的に考察し
鋭い言語感覚を身につけましょう。

谷川 晋一 准教授

日英語を比較考察することにより、それぞれの言語がどのような特徴を持つかという個別性に加え、言語一般に当てはまる仕組みや法則という普遍性について学びます。日英語は、語順など多くの面で特徴が異なりますが、共通の構文や現象も存在します。それらを、形式、文法、意味の観点から考察し、日英語の相違点及び共通点について言語理論にも目を向けながら議論を行います。単に言語事実を知るだけでなく、「なぜ相違性や共通性が存在するのか」という問いに向き合うことで、言語事実を論理的に分析する力も養います。言葉は、社会を映し出す鏡です。多文化社会で活躍するには、言語の特徴を踏まえ、場面に応じて適切に言語を運用する力が求められます。論理的観点から日英語を考察することで、言語感覚を磨いてください。

Student's Voice



【異文化間コミュニケーション】
日常や自分の立ち位置を
見直すことが大事です。

4年 篠崎 碧
長崎県・長崎日本大学高等学校出身
留学先:イギリス/キール大学

この講義は異文化を持つ者同士が接触した際に起こりうる摩擦を前提とした授業です。全て英語で行われます。不安に思う人もいるかもしれませんが、心配しないでください。1年生からの講義で、受講できるだけの英語は身につけているはず。より英語の使用にも自信が持てるのではないのでしょうか。講義では、教科書として使われているテキストはもちろんのこと、グループワークやプレゼンテーションなどを通して、どのような場面で摩擦や衝突が起こりうるのかを学んでいきます。他文化を学ぶというより、衝突が起こった事例をもとにディスカッションなどを行うことにより、自文化のことも見つめ直すきっかけにもなります。衝突や摩擦を受け入れ、自分の立ち位置を見つめることでそこからまた新しい異文化との交流の道が拓けていこうと思えます。

オランダ特別コース

オランダ語文化圏について、
人文学・社会科学の
様々な角度から学ぶ

オランダ特別コースは、オランダ語文化圏について、人文学・社会科学の様々な角度から学ぶ日本に唯一のコースです。このコースでは、オランダを出発点にヨーロッパ社会について学ぶことにより、欧州の文化に精通し国際的に活躍できる人材や、オランダで起きていることから近未来の日本のありかたを深く考えることができる人材を育成します。1年間のオランダ留学が必修となります。留学先のライデン大学では、オランダ語の学修および学生の関心と将来計画に即した講義を受講し、ヨーロッパ単位互換制度(ECTS)に準拠したグローバルに通用する専門知識と技能を身につけることができます。



《開講科目》

- 日蘭比較文化
- オランダ現代社会論
- オランダ文化論
- オランダ語Ⅰ
- オランダ語Ⅱ
- オランダ語Ⅲ
- EU法
- 異文化理解教育
- 地域史料論
- ライデン大学で取得した科目

※科目名称は変更する場合があります。
※青字は複数コースにまたがる専門講義科目

Teacher's Voice



【オランダ文化論】
オランダはヨーロッパ諸国、世界各国の企業の架け橋です。
ポイケルス ハルメン 教授
(ライデン大学招聘教授)

オランダは、ヨーロッパの国々の中では比較的小さな国です。ですがヨーロッパにおけるオランダの重要性は、単に数字で語ることはできません。

例えば、欧州連合の創設を定めたマーストリヒト条約(1993)締結においては、オランダの首相が特別な役割を果たしました。彼は、北欧および南欧の政府間の溝を埋めるのに尽力し、その結果、欧州中央銀行やユーロの導入に貢献しました。

オランダの社会的な風土や政治・行政制度は、世界各国の企業の進出拠点としてふさわしい投資・ビジネス環境を提供しています。さらにオランダは、国際的企業がヨーロッパ諸国に展開する際のハブの役割も果たしています。また、日本企業は、ヨーロッパの中でオランダにもっとも多く進出しています。

これらはあくまで一例ですが、「オランダ文化論」の授業を通じて、オランダのことを更に深く知る機会になることを期待しています。

Student's Voice



【日蘭交流史】
※平成30年度より科目名「地域史料論」に変更予定
教科書よりも深い！日蘭交流史の実態。
3年 比嘉 璃子
沖縄県立那覇国際高等学校出身
留学先：オランダ/ライデン大学

日蘭交流史では、おもにその起源であるオランダ船「De Liefde」の豊後への漂着から、幕末の開国までを取り扱います。毎週、江戸時代の古文書を用いて、日蘭両国の情勢や近隣諸国との関係などを手掛かりに、当時の日蘭交流に迫ります。少人数の講義なので、教授や他の生徒とも気軽に意見を交わすことができ、学びが深まります。古文書が苦手でも、教授がフォローしてくれるので安心して講義に参加できます。古文書に記された言葉だけにとらわれず、当時を取り巻く状況など広い視野から日蘭交流について考えるので、講義の外でも活かせるような、物事を多角的に捉える力が身につくと思います。蘭学などオランダから流入した西洋の知識を含めて日蘭交流史に興味がある人はもちろん、古文書を通して日本の外交史を紐解きたいという人におすすめの講義です。

1年次から途切れなく提供する独自のキャリア教育プログラム

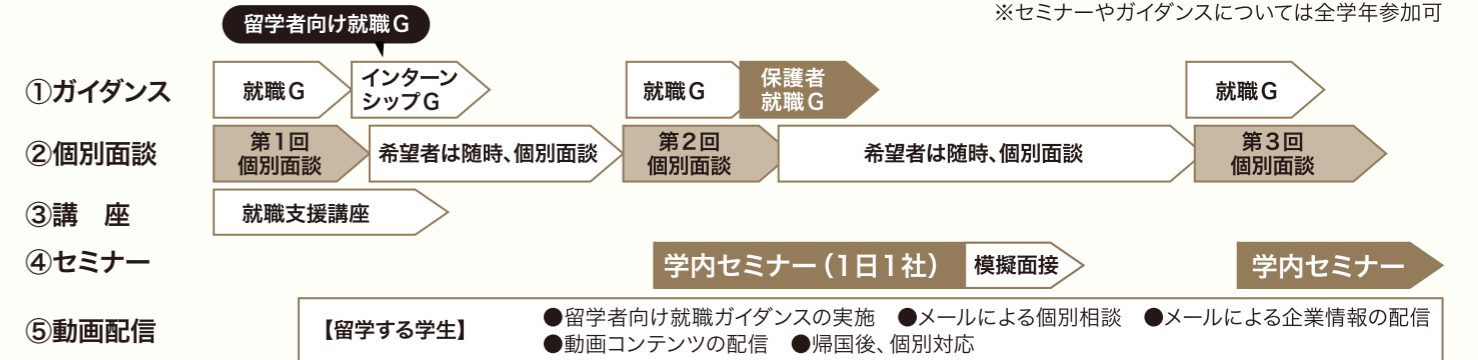
グローバル化が加速する時代のライフコースを視野に入れて、独自のキャリア教育プログラムを提供しています。

1年次のキャリア科目「グローバルキャリア入門」では、国際関係機関、国際NGO、ジャーナリズムといった経験に基づく授業を行い、将来のキャリアを形成するための課題について議論しながら学びます。学生の主体的な意思と努力によって職業体験を経験することも重視しており、学生の自主的な参加を前提とした選択科目「自主企画インターンシップ」も設定しています。2,3年次には学内セミナーと連動して職業選択の在り方を正規科目「企業セミナー」として実践的に学ぶとともに、専門教育科目として「キャリア形成論」(3年次)を必修化し、1年次から4年次まで独自のカリキュラムを提供します。

多文化社会学部による就職支援(主に3年次以降)

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月

※セミナーやガイダンスについては全学年参加可



就職支援講座

自己分析、業界研究、応募書類の書き方からインターンシップ先の探し方など、就職に関する基礎知識を幅広く学ぶ講座です。正規の授業科目と並行して実施しています。



自分を見つめながら仕事を通じた将来の成長に主体的に向き合うことを目的に、学部独自で個別面談を年に複数回、実施しています。中期・長期留学を経験する学生にも、キャリア形成中での意識づけを目的に留学期間中もサポートします。このように、1年次から4年次までキャリア形成のためのプログラムを途切れなく提供し、自己の強みを最大限に活かすことのできる将来目標を設定するための支援体制を、学内のキャリア支援センターと連携しながら整備しています。

取得できる資格・免許

多文化社会学部では学生が資格や免許取得に積極的に取り組める環境を整えています。

● 高等学校教諭一種免許状(英語)

言語コミュニケーションコースに進んだ学生は、教員免許関連科目の単位(教育実習を含む)を修得することで、卒業時に「高等学校教諭一種免許状(英語)」を取得することができます。本コースの専門講義科目の多くが教員免許関連科目に指定されているため、言語学や文学、異文化研究に関する専門性を身につけながら、英語教員免許状の取得ができます。教育法科目や教育実習の受講により、高等学校の教員として必要な資質を身につけるとともに、学部教育を通じて獲得した卓越した英語力と専門性を、高等学校という教育現場で生かすための、効果的な指導法や教材開発手法を学ぶことができます。*ただし、3年次以降に中期・長期留学を行う場合、4年卒業での免許状の取得ができません。

● 日本語教員基礎資格

多文化社会学部で開講される日本語教員基礎資格科目を履修し、所定の単位数を取得した学生に対して「日本語教員基礎資格」を認定し、卒業時に日本語教員養成プログラムの修了証を交付します。世界では400万人近い人々が日本語を学習していますが、教師の数はまだまだ不足していると言われていて、とりわけ英語の堪能な日本語教師に対する需要は高く、多文化社会学部で学んだ学生にとって適した資格だと言えます。

学内セミナー(1日1社)

各業界を代表する企業の人事担当者を長崎大学へ招き、多文化社会学部生をメンターゲットとした特別説明会を開催しています(平成28年度は約70社が来訪)。



学内セミナー参加企業(一部抜粋)

- ◎経済産業省 ◎JTBグループ ◎住友商事 ◎JICA ◎武田薬品工業
- ◎長谷川香料 ◎旭化成 ◎NHK ◎パナソニック ◎国際協力銀行
- ◎帝人 ◎三井物産 ◎長崎新聞社 ◎NHK ◎JETRO など多数

Student's Voice



1年次から始まるキャリア教育。様々な業界の知識が得られます。
4年 秀 総一郎
熊本県・真和高等学校出身
留学先：ドイツ/マンハイム大学

多文化社会学部では、1年次から自らのキャリアを考える機会が多くあります。1年次の『グローバルキャリアへの扉』を始め、2年次には『キャリア支援講座』、そして3年次には『キャリア形成論』が開講され、民間企業や省庁を始め、様々な分野で活躍されている方を外部講師として招き、自己の「キャリア」を考える材料を得ています。また、本学部には、就職支援専門の先生の他にも、様々な分野で勤務経験のある先生が多数在籍しているので、個別に面談を受けることもできます。このように、キャリアに関する講義、先生との個別面談、そしてインターンシップを通して、早い時期から様々な分野の情報を得ることができたからこそ、早い段階で目標を設定し、準備することができました。そしてこの春、第一志望にしていたテレビ局から内々定を頂くことができました。

CAMPUS LIFE

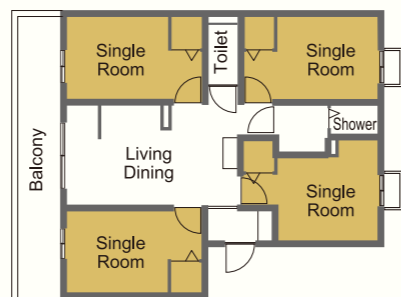
勉強はもちろんサークル活動や学内イベントにも参加して
キャンパスライフをより充実したものにしましょう。

	4月 April	*1年生入寮 *入学式 *前期授業開始 *新入生研修	
	5月 May	*開学記念日	
	6月 June	*TOEFL ITP 受験	
	7月 July	*オープンキャンパス *前期授業終了 *前期定期試験	
	8月 August	*初年次セミナー成果発表会 *夏季休業 *夏季英語集中講座	
	9月 September	*短期留学	
	10月 October	*後期授業開始 *TOEFL ITP 受験	
	11月 November	*学園祭	
	12月 December	*冬季休業	
	1月 January	*後期授業終了 *後期定期試験	
	2月 February	*TOEFL ITP 受験	
	3月 March	*短期留学 *春季休業 *卒業式	

キャンパス外の日常生活においても多文化状況の交流を体感 国際学寮ホルテンシア

International Dormitory HORTENSIA

多文化社会学部の新入生は、入学時から1年間は原則として、寮で生活を共にすることになります。1ユニット4人(外国人留学生1人を含む)のルームシェア形式で、新入生同士や外国人留学生と共同生活を送りながら、大学キャンパス外の日常生活でも多文化状況の中での交流を体感することができます。
なお、防犯対策として、各ユニットの玄関にはカードキー対応ドアを、各個室には暗証番号対応ドアをそれぞれ装備しています。



【所在地】(A棟)長崎市白鳥町8-77 / (B棟)長崎市白鳥町8-78
(ともに大学まで徒歩12分程度)

【収容人数】135人(A棟72人・B棟63人)
1ユニット4人(外国人留学生1人を含む。)のルームシェア形式
(ただし、1ユニットのみ車椅子対応の3人のルームシェア)
※入学者の状況によっては、外国人留学生とのルームシェアとならない場合があります。

【入居費用】月額22,000円(ただし、水道光熱費を除く。)
※上記のほか、入居時に借家人賠償責任保険等の加入が必要です。
※退去時のクリーニング費用として、10,000円が必要です。

【施設】集会室、駐輪場

【設備】《個室》エアコン、光回線インターネット、TV端子、照明、机、椅子、ベッド、電気スタンド、暗証番号対応ドア
《共有スペース》シャワーブース、システムキッチン、ダイニングセット(テーブル、椅子)、冷蔵庫、電子オーブンレンジ、全自動洗濯機、衣類乾燥機、カードキー対応玄関ドア等

【食事】食事の提供はありません。共同キッチンで自炊することができます。



「昨年度寮長対談」
寮生活を振り返って

熊本県立第一高等学校出身
平井 健斗(2年)

長崎県立長崎北高等学校出身
松尾 美咲(2年)

入学して一年間は、原則として全学生が寮で共同生活を送る、というのが長崎大学多文化社会学部の特徴です。様々な文化的背景を持つ者同士が、日常生活から関わり合うことで、語学力だけでなく深い絆も生まれます。昨年度寮長を務めた二人に寮生活を振り返ってもらいました。

平井：一年間の寮生活を振り返ってどうだった？

松尾：すごく充実していたよ。ルームメイトと一緒に勉強したり、ご飯をつくったり本当に家族みたいな関係になれたなあ。留学生と暮らせるのもこの寮の特徴だけど平井君の部屋はどうだった？

平井：僕の部屋は台湾から来た留学生と一緒に住んでいたんだけど、普段は日本語で会話して、相手が分からないときだけ英語で喋っていたから、お互いにとって勉強になったよ。松尾さんの部屋は普段からドイツの留学生と英語で話していたよね。

松尾：うん、後期はね！前期の間は韓国人の留学生と一緒にだったんだ。彼女は日本語が上手だったけど日本語の授業の宿題を手伝ったり、韓国の料理と一緒に作ったりしたよ。何か困ったことかもあった？

平井：寮に入ったばかりのときは、ゴミ捨てとか掃除の役割を決めていなかったけど、みんなで話し合って居心地のいい場所になるように協力し合っていたかな。

松尾：私も！あと集会室もよく活用したよ。

平井：そうだね。大きなスクリーンを使ってプレゼンテーションの練習もしたね！

松尾：私はグループワーク方式や、難しい課題が出たときにも話し合いのために活用していたよ。

平井：集会室に限らず、部屋の共用部分でもよく勉強したなあ。アルバイトやサークルの活動で夜遅くなっても、気軽に集まって学習できる環境があるのはホルテンシアの特権だよ。じゃあ、最後に一番楽しかったホルテンシアでの思い出は？

松尾：え～たくさんあるけど、やっぱり集会室での誕生日パーティーかな！

平井：僕もみんなに祝ってもらって嬉しかったな～！他にも集会室の大きなスクリーンで映画を見たり、中庭で遊んだり、どれも思い出だね。

松尾：うん！ホルテンシアの生活は本当にいい経験になったし、みんなと暮らせて良かったなあ。新入生にも、寮生活を楽しんでもらいたいね。

平井：文化の違いを肌で感じる良い機会になるし、充実した一年にしてもらいたいね！



多様な知識と経験を持つ教員との出会いも 多文化社会学部の大きな魅力

多文化社会学部には、海外の様々な文化に通じる日本人の教員と外国籍もしくは外国出身の教員が在籍しています。様々な現場で実務経験のある教員も多く情報に奥行きがあり、実践的な知識が詰まった講義が展開されます。これから多文化社会へと羽ばたいていく皆さんにとって多様なバックボーンを持つ教員たちとの出会いはかけがえのない学びの機会となることでしょう。



教授
稲田 俊明
INADA, Toshiaki
【現代言語理論】

専門は言語学、英語学、言語獲得。言語共通の法則と言語固有の特性や多様性について、英語や日本語の事例を中心に研究。関連して、子供の言語獲得のモデルを研究。



教授
近江 美保
OMI, Miho
【国際人権論】

専門は国際法、国際人権法、フェミニズム国際法学。女性差別撤廃条約をはじめとする国際的な人権保障システムや、人権及びジェンダーと国際経済法の関係について研究。



教授
木村 直樹
KIMURA, Naoki
【地域史料論】

日本近世政治・外交史(対外関係史)について、長崎を起点に研究。島原の乱や、九州発近世屈指の大飢饉である寛永飢饉についても研究。



教授
源島 福己
GENJIMA, Fukumi
【キャリア形成論】

海外留学やインターンシップがグローバル人材育成や社会人基礎力に及ぼす影響を研究。今は非英語圏における日系企業の人材育成が主な研究テーマ。



教授
森川 裕二
MORIKAWA, Yuji
【国際政治学】

国際政治の仕組みが、一体化する世界の中でどのように変化しているのか、国際政治の理論的な基礎を歴史的な背景や現実の社会の動きに照らして研究。



教授
楊 晓安
YANG, Xiaohan
【対照言語学(日中)】

専門は応用言語学、実験音声学。実験音声学の手法を用いて、音声分析ソフトによる音声分析を通して、中日両言語の音声構造と文法・語義の関係について研究。



教授
連 清吉
REN, Seikichi
【中国思想史】

専門は中国思想、日本漢学。中国古代思想、とりわけ儒家と道家思想の在り方及びその現代的意義と、日本近代における中国学を受容・変容を研究。



教授
王 維
WANG, Wei
【異文化交流論】

長崎をはじめ、世界各地におけるチャイナタウン及び華人系社会・文化及び上位社会との交流史、音楽受容史、異文化観光について研究。



教授
佐久間 正
SAKUMA, Tadashi
【日本思想史】

専門は日本思想史。徳川日本を中心に日本思想史の研究を進めてきたが、近年は環境思想史の構築を目指すとともに、琉球王国の思想を研究。



教授
首藤 明和
SHUTO, Toshikazu
【現代アジア社会論】

家族・コミュニティ・市民社会・民族・国家や、越境を伴う移動とネットワークに着目し、アジアの社会と文化の分析を通して共生社会のあり方を模索。



教授
中村 則弘
NAKAMURA, Norihiro
【国際社会学】

専門は、国際社会学、社会変動論。西欧社会知と対比しつつ、脱オリエンタリズムを軸にグローバル化時代のなかでアジアの諸価値体系の持つ意味を批判的に問い直す。



教授
西原 俊明
NISHIHARA, Toshiaki
【コーパス言語学】

専門は、言語学、英語学、応用言語学。英語を中心に、言語に見られる普遍性・個性についてコーパス等を用いて研究。



准教授
才津 祐美子
SAITSU, Yumiko
【文化資源論】

専門は民俗学、文化人類学。近現代の日本における地域文化の表象・継承・活用のあり方について、文化遺産保全を中心に研究。



准教授
賽漢卓娜
SAIHANJUNA
【異文化と家族】

専門は家族社会学、移民研究、ジェンダー研究。アジアにおける国際と国内の移動現象について質的研究。移動者を主体的に捉え、その目線を重視。



准教授
白井 章詞
SHIRAI, Shoji
【キャリア形成論】

大学におけるキャリア教育について、教育効果と問題点を調査・研究。若者の職業能力の向上に資する教育プログラムの開発と実践にも取り組む。



教授
鈴木 英明
SUZUKI, Hideaki
【グローバル文化交流史】

専門は歴史学、世界史、インド洋海域史。グローバル化する世界に生きる私たちがどのような世界史像を持ってほしいのかをインド洋海域世界を主たる事例にして研究。



教授
野上 建紀
NOGAMI, Takenori
【陶磁考古学】

専門は考古学。陶磁器を生産した窯、運んでいた船、消費していた都市の遺跡を調べて、「陶磁の道」とも呼ばれる「海のシルクロード」を研究。



教授
葉柳 和則
HAYANAGI, Kazunori
【文化表象論】

専門は文化社会学。主テーマとして多言語国家スイスのナショナル・アイデンティティ、副テーマとして近現代長崎の都市イメージを取り上げ、表象の政治という視点から研究。



教授
広瀬 訓
HIROSE, Satoshi
【国際機構論】

専門は国際機構論、軍縮、安全保障論。核軍縮交渉のプロセス、特に核不拡散条約(NPT)を中心とした多国間交渉における、人権の確保を保障するための法的枠組みの可能性を研究。



教授
正本 忍
MASAMOTO, Shinobu
【社会史】

専門はフランス近代社会史、法制史。フランス北西部ノルマンディー地方を主なフィールドとして近世フランスの統治構造および社会構造の研究。



准教授
滝澤 克彦
TAKIZAWA, Katsuhiko
【宗教文化論】

専門は宗教学、モンゴル研究。現代モンゴル国のキリスト教流行現象や、東日本大震災後の祭礼復興などを対象として、社会と宗教の動的関係について研究。



准教授
谷川 晋一
TANIGAWA, Shin-ichi
【対照言語学(日英)】

英語学、言語学、文法論が専門。英語と日本語を中心とした文法、特に語順の変化が意味解釈にどのような影響を与え、なぜそのような影響が生じるかという点に焦点を当てた研究。



准教授
波佐間 逸博
HAZAMA, Itsuhiro
【地域生態論】

アフリカの牧畜社会でフィールドワークを行い、暴力紛争や民族的病いの問題、他者や動物との共生とコミュニケーションについてサバンナの生活者自身の目線から研究。



准教授
増田 研
MASUDA, Ken
【現代アフリカ社会論】

専門は社会人類学。アフリカ、アジア、日本の各地で社会の成り立ちと歴史を追いかけています。近年は、開発途上国における保健と高齢化の問題に取り組む。



教授
門司 和彦
MOJI, Kazuhiko
【グローバルヘルス】

専門は人類生態学。環境と健康の関連を一体として捉えるエコヘルスの視点にたつて、集団の健康と生存についての人類生態学的研究をアジアやアフリカの調査地で研究。



准教授
南 誠
MINAMI, Makoto
【トランスナショナリティ論】

専門は歴史社会学、国際社会学。中国帰国者の調査や、満洲の歴史と記憶の国際比較を手がかりに、近代東アジアにおける境界文化の生成と消解について研究。



准教授
見原 礼子
MIHARA, Reiko
【異文化理解教育】

専門は比較教育学、教育社会学。ヨーロッパを主なフィールドとして、多文化社会における移民の教育問題や子どもの虐待問題を研究。



助教
山下 龍
YAMASHITA, Noboru
【オランダ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】

①日本人を対象としたオランダ語教育、②日本人を対象とした英語教育、③日欧比較文化の研究(現在は主に日本茶道文化史の研究)、④日蘭交流史(現在は主に島と医学の研究)

※[]内は教員の主な開講科目名です。
※科目名は変更となる可能性があります。

平成30年度入試情報

求める学生像

- 英語を主とする外国語の運用能力の基礎が充実している者
- 世界の多文化状況や異文化交流に興味、関心を持ち、グローバルな視点で自ら学ぼうとする意欲のある者
- 世界の多文化状況を客観的に捉え、見出された課題の解決に向けて論理的に思考できる者
- 世界規模の多種多様な考え方や価値観を尊重しつつ、それらについて批判的に思考できる者

一般入試 ※詳細は、11月下旬発表予定の「平成30年度一般入試学生募集要項」をご覧ください。

学力検査等の区分・日程	コース名	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		2段階選抜	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									
		教科	科目名等	教科等	科目名等		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	面接
【前期】 2月25日 (日)	国際公共政策コース 社会動態コース 共生文化コース 言語コミュニケーションコース	国 地歴 公民 数理 外	国 世B / 日B / 地理B 現社 / 倫 / 政経 / 倫・政経 数I / 数II / 数A / 数II / 数II・数B ①物理基礎 / 化学基礎 / 生物基礎 / 地学基礎から2科目 ②物理 / 化学 / 生物 / 地学から1科目 英 / 独 / 仏 / 中 / 韓から1科目	外 その他	コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III・英語表現I・英語表現II 批判的・論理的思考力テスト(総合問題)	以下のA～Cのうち、いずれかを満たす者を第1段階選抜の合格者とする。 A: 大学入試センター試験の外国語の得点率が80%以上の者(注3) B: 次の①と②の両方を満たした者 ①大学入試センター試験の外国語の得点率が75%以上(注3) ②多文化社会学部が指定する大学入試センター試験の教科・科目のうち、外国語を除いた3教科3科目又は3教科4科目の得点を、多文化社会学部が定める前期日程の配点比率に換算した合計点100点満点中75点以上(75%以上の得点率) C: TOEFL iBT 61点以上、TOEFL Junior Comprehensive 341点以上、TOEIC(TOEIC L&R) 730点以上、TOEIC(TOEIC L&R)+TOEIC S&W 1000点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS 5.5以上、GTEC for STUDENTS(L&R&W) 700点以上、GTEC for STUDENTS (L&R&W)+(S) 850点以上、GTEC CBT 1040点以上又はTEAP 334点以上のいずれかのスコア・級を有する者	センター試験 個別学力検査 計	50 50 50	25 25 25	25 25 25	200 100 300	200 200 200				300 300 600
	オランダ特別コース	国 地歴 公民 数理 外	国 世B / 日B / 地理B 現社 / 倫 / 政経 / 倫・政経 数I / 数II / 数A / 数II / 数II・数B ①物理基礎 / 化学基礎 / 生物基礎 / 地学基礎から2科目 ②物理 / 化学 / 生物 / 地学から1科目 英 / 独 / 仏 / 中 / 韓から1科目	外 その他	コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III・英語表現I・英語表現II 批判的・論理的思考力テスト(総合問題) 面接	以下のA～Cのうち、いずれかを満たす者を第1段階選抜の合格者とする。 A: 大学入試センター試験の外国語の得点率が85%以上の者(注3) B: 次の①と②の両方を満たした者 ①大学入試センター試験の外国語の得点率が80%以上(注3) ②多文化社会学部が指定する大学入試センター試験の教科・科目のうち、外国語を除いた2教科2科目の得点を、多文化社会学部が定める後期日程の配点比率に換算した合計点100点満点中80点以上(80%以上の得点率) C: TOEFL iBT 61点以上、TOEFL Junior Comprehensive 341点以上、TOEIC(TOEIC L&R) 730点以上、TOEIC(TOEIC L&R)+TOEIC S&W 1000点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS 5.5以上、GTEC for STUDENTS(L&R&W) 700点以上、GTEC for STUDENTS (L&R&W)+(S) 850点以上、GTEC CBT 1040点以上又はTEAP 334点以上のいずれかのスコア・級を有する者	センター試験 個別学力検査 計	50 50 50	25 25 25	25 25 25	200 100 300	200 200 200		60 60 60	300 360 660	
【後期】 3月12日 (月)	国際公共政策コース 社会動態コース 共生文化コース 言語コミュニケーションコース	国 地歴 公民 外	国 世B / 日B / 地理B 現社 / 倫 / 政経 / 倫・政経 英 / 独 / 仏 / 中 / 韓から1科目	その他	小論文 面接	以下のA～Cのうち、いずれかを満たす者を第1段階選抜の合格者とする。 A: 大学入試センター試験の外国語の得点率が85%以上の者(注3) B: 次の①と②の両方を満たした者 ①大学入試センター試験の外国語の得点率が80%以上(注3) ②多文化社会学部が指定する大学入試センター試験の教科・科目のうち、外国語を除いた2教科2科目の得点を、多文化社会学部が定める後期日程の配点比率に換算した合計点100点満点中80点以上(80%以上の得点率) C: TOEFL iBT 61点以上、TOEFL Junior Comprehensive 341点以上、TOEIC(TOEIC L&R) 730点以上、TOEIC(TOEIC L&R)+TOEIC S&W 1000点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS 5.5以上、GTEC for STUDENTS(L&R&W) 700点以上、GTEC for STUDENTS (L&R&W)+(S) 850点以上、GTEC CBT 1040点以上又はTEAP 334点以上のいずれかのスコア・級を有する者	センター試験 個別学力検査 計	50 50 50	50 50 50		200 200 200		250 250 250	50 50 50	300 300 600	
	オランダ特別コース	実施しない				実施しない										

(注1) 地歴・公民を2科目受験している場合は、第1解答科目を採用する。
 (注2) 数学及び理科を学部が指定している科目数より多く受験している場合は、高得点科目を採用する。ただし、理科については第2解答科目は採用しない。
 (注3) 大学入試センターが発表する大学入試センター試験(本試験)平均点(中間集計その2)における英語の平均点(筆記試験とリスニングテストの平均点の合計を200点満点に換算)が、115点を下回る場合は、大学入試センター試験の外国語科目の得点率(英語に限る)を見直すことがある。なお、得点率の見直しの有無及び見直し後の得点率は、平成30年1月22日頃に長崎大学ホームページ(入試情報サイト)で発表する。

AO入試I ※詳細については、7月上旬頃発表予定の「平成30年度AO入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日
(第2次選考日) **平成29年10月14日(土)**

選抜方法等
自己推薦書、調査書等、個人面接及び筆記試験の結果を総合して合格者を決定します。

一般枠の出願には、TOEFL iBT 61点以上、TOEFL PBT500点以上、TOEFL ITP 500点以上、TOEFL Junior Comprehensive341点以上、TOEIC (TOEIC L&R) 730点以上、TOEIC (TOEIC L&R) +TOEIC S&W1000点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS5.5以上、GTEC for STUDENTS (L&R&W) 700点以上、GTEC for STUDENTS (L&R&W) + (S) 850点以上、GTEC CBT1040点以上又はTEAP 334点以上のいずれかのスコア・級が必要です。
 注1) 外国語検定試験は、平成27年9月以降に受験した試験に限ります。ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成27年9月以降に受験した試験とします。
 注2) 外国語検定試験は、公式スコアを対象(TOEFL ITPを除く)とします。
 注3) グローバル・国際バカロレア枠の出願要件については募集要項をご覧ください。

帰国子女入試 ※詳細については、9月上旬頃発表予定の「平成30年度帰国子女入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日 **平成29年11月15日(水)**

選抜方法等
提出された書類及び面接(日本語及び英語による)の成績の結果を総合して合格者を決定します。

出願には、TOEFL iBT 75点以上、TOEFL PBT537点以上、TOEIC (TOEIC L&R) 750点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上又はIELTS6.0以上のいずれかのスコア・級が必要です。
 注1) 外国語検定試験は、平成27年11月以降に受験した試験に限ります。ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成27年11月以降に受験した試験とします。
 注2) 外国語検定試験は、公式スコアを対象とします。

外国人留学生入試 ※詳細については、9月上旬頃発表予定の「平成30年度外国人留学生入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日 **平成30年1月24日(水)**

選抜方法等
「TOEFL 等の成績」、「日本留学試験(日本語、総合科目及び数学コース1)」、「面接(日本語及び英語による)」の得点を総合して合格者を決定します。

出願には、TOEFL iBT 61点以上、TOEFL PBT500点以上、TOEIC (TOEIC L&R) 730点以上又はIELTS5.5以上のいずれかのスコア・級が必要です。
 注1) 外国語検定試験は、平成27年11月以降に受験した試験に限ります。
 注2) 外国語検定試験は、公式スコアを対象とします。

入学者選抜の基本方針

多文化社会学部の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎的・基本的知識と教育課程を通して育成される、論理的批判的思考力・判断力・表現力を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、選抜にあたっては英語を主とした外国語の運用能力と、多文化状況や異文化への興味・関心、学ぶことへの意欲も重視します。

募集人員

学部	学科等	入学定員	募集人員						合計
			一般入試(分離・分割方式)		AO入試I		帰国子女入試	外国人留学生入試	
			前期日程	後期日程	一般枠	グローバル・国際バカロレア枠			
多文化社会学部	国際公共政策コース 社会動態コース 共生文化コース 言語コミュニケーションコース オランダ特別コース	100	68	10	8	4	若干人	若干人	90
	7			2	1	若干人	若干人	10	
	計	100	75	10	10	5	若干人	若干人	100

批判的・論理的思考力テスト(総合問題)の導入

一般入試(前期日程)の「批判的・論理的思考力テスト(総合問題)」では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎的・基本的知識と教育課程を通して育成される、批判的・論理的思考力を評価しています。
 グローバル化する社会でみなさんが直面する出来事や課題は、たとえ個人的な事項、ローカルな問題であろうとも、どこかでグローバルな要因とつながっています。そして、こうした出来事や課題の解決のためには、「唯一の正解」を見出すことができない場合がほとんどです。
 こうした「唯一の正解」のない問いに答えようとする上で重要となるのは、身につけた知識や技法を活用して、唯一の正解など存在しない出来事や課題に対してできる限り説得力のある解釈や解答を導き出す力です。
 批判的・論理的思考力テストでは、文章、グラフ、地図、表などを読み解き、そこから論を展開していくことになります。
 そのためには

- (1) 国語の授業で身に付ける読解力、思考力、文章力
- (2) 地歴・公民の授業で身に付ける歴史の流れ・因果関係
- (3) 「この地域はこんな地域」という地理的イメージ力
- (4) 現代社会の仕組みや他者に対する倫理
- (5) 数学や理科の学習を通して養われる数理的に物事を判断する力や論理的に推論する力といった力と知識を総動員することが必要となります。

過去の入試問題及び出題例・解答例・採点の観点については下記URLよりPDFをダウンロードできます。
<http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp/exam/data.html>

大阪・福岡 学外試験場のご案内(予定) [一般入試(前期日程)]

※オランダ特別コースについては長崎(文教キャンパス)試験場のみの受験となります。

